

# トラ・ゾウ保護基金年次報告書

March 2026



イリオモテヤマネコ保護基金 © Susumu Murata



© Vivek Menon  
トラ保護基金



ゾウ保護基金 © Kojo Tanaka

**2025年、** 人とクマとの接触による事故が多発した。2月3日時点の環境省資料によれば、2025年4月～2026年1月の死傷者数は236名（うち死者13名）。一方、捕殺されたクマの数は初めて万の単位を超え、13,387頭となった（2025年12月時点）。

クマ類の大量出没とそれに伴う事故の発生は、2025年になって突然起きたものではない。東北地方では既に2000年にその傾向がみられた。その後、ほぼ各年周期で大量出没が発生するようになった。特に2023（令和5）年度は顕著だった。近年に特徴的なのは人の居住地さらには市街地への出没である。それに伴い、人身被害の発生も増え、2025年の被害件数は2023年のそれを11月時点で上回る事となった。

ただし、本州以南に生息するツキノワグマ（九州では絶滅、四国にもわずか30頭程度を残すのみ。）の場合、全域で事故が増加しているわけではない。死傷者数は、もっとも多い秋田県だけで全体の29%、これと同じ東北

地方の岩手県と福島県を合わせた上位3県で55%を占める。また、北海道のみに生息するヒグマの場合、2025～2026年に特に死傷者が多かったわけではない。

それにしても、2025年には、全国的に、クマの出没とそれに伴う人身被害の情報が、マスメディアで連日報道され、SNSでさかんに拡散された。日本政府も、ついに閣僚レベルの対策会議を開いて国として対処を強化する姿勢をアピールするに至った。クマとの接触による人身被害は、今後社会問題の一つとして定着していく可能性がある。

JTEFは、トラ・ゾウとその生息域内に暮らす地域コミュニティとの共存を目指し、両者の間のコンフリクト Human and Wildlife Conflictの緩和に取り組んできた。「共存」のあり方について発信していくことの重要性を改めて強く感じる。

参考資料：山崎晃司. 2026.クマとのすみ分けを考える.動物たち Vol.212：2026年1月号.日本動物愛護協会／2024年3月19日付日本哺乳類学会「今後のクマ類の管理に関する意見書」環境省ウェブサイト／北海道ウェブサイト



トラ

©田村維新



マルミゾウ

©Kojo Tanaka

## 種の「グリーン・ステイタス」

「レッド・リスト」は、野生生物種の絶滅のおそれを評価し、いくつかのカテゴリーに分類するもの。国際自然保護連合 (IUCN) の種の保存委員会 (SSC) が作成しています。トラ、アフリカサバンナゾウ、アジアゾウは「絶滅のおそれが非常に高い」、マルミゾウは「絶滅のおそれが極度に高い」とされます。最近、SSCは種の保全の未来に向けた前向きなビジョンを示すべく「グリーン・ステイタス」を打ち出しました。これは、レッド・リストに選定された種の回復と保全の効果に関する新たなカテゴリーを示すものです。JTEFが保全活動に取り組む種のうち、現時点ではトラとマルミゾウについてグリーン・ステイタス評価が行われています。



グリーン・ステイタスが想定する「完全な回復」とは、その種が歴史的に分布してきた全域に存在し、全域で存続可能で（絶滅のおそれにさらされていない）、全域でその生態学的機能を発揮していることを指します。この「完全な回復」を100%とし、そこからの実態の隔たりを%で示します（「グリーン・スコア」）。言うまでもありませんが、ほとんどの種にとって「完全な回復」は現実には不可能でしょう。この定義の狙いは、かつての生息域のどれほどが失われてしまったのかという文脈の下で、どの生息域に保全のチャンスが残されているかを、すべての種について共通の手法で評価できるようにすることにあります。

具体的な保全の効果を測る手法については、過去、現在、短期的未来（10年後。保全活動が行われた場合、行われなかった場合の2つのシナリオを設定）、長期的未来の各時点におけるグリーン・スコアを推定します。そうすることで、次の4つの評価軸が整えられます。

「**保全の遺産**」：現在の種の状態に貢献した過去の保全努力

「**保全への依存度**」：保全活動を止めてしまった場合、10年後、種の状態にどの程度の影響が及ぶか

「**保全によって得られる利益**」：計画されている保全活動が行われることで、10年後に期待できる種の状態の変化

「**回復のポテンシャル**」：今日の世界の現状を踏まえ、種の歴史的な分布範囲において、生態学的に機能する種の個体群が修復され得る程度（例えば、トラはかつて、現在のジャカルタにも生息していたが、その生息域を修復することは不可能）

## トラのグリーン・ステイタス

「回復カテゴリー」は「**極度の喪失**」、「回復スコア」は14%という評価です。そこには、トラが24に区分されたもとの生息域のうち9つで絶滅し、残る15の生息域すべてで生存の危機にさらされている（5つの生息域では絶滅のおそれが「高い」、2つでは「非常に高い」、8つでは「極度に高い」）現状が反映されています。

一方、「保全の遺産」は「高い」と評価されました。これまでの保全の努力が仮に行われていなかったとしたら、最悪の場合、7つの生息域での地域絶滅はまぬかれなかった（それ以外の8つの生息域では絶滅のおそれが極度に高い状態へ）と考えられたためです。

（これから10年間の）「保全への依存度」と「保全によって得られる利益」は、ともに「低い」とされました。これは、今後の保全の努力がトラの存続にあまり影響しないという意味ではなく、トラという動物の長い生活史を考えると、保全活動継続の基準とされる「10年」がその存続への影響を測るには短過ぎるからだと言われています。そして、生息域が「極度の喪失」状態にあるトラにとって、たとえわずかな状況の改善であっても、**重要な保全上の利益をもたらすはずだと強調され、今後の10年間を通して、いくつかの生息域でさらなる縮小が食い止められ、限定的にせよ生息域が拡大し、種の現状が改善されることも期待できるとのことです。逆に保全活動が止まってしまったら、最悪のシナリオでは、今残されている15の生息域うち4つで地域絶滅が避けられない状況になると予測されています。**

長期的な「回復のポテンシャル」については「中程度」とされました（基準となる「完全な回復」の定義の厳しさを考えると、相当

な希望があるということです）。もし、**妥当な保全活動が全面的に実施され、最大限の効果を発揮したとしたら、100年以内に歴史的な生息域24すべてに（もっとも控えめな予測でも7つの生息域以外に）トラが戻ってくると予測されています。**その場合、9つの生息域では個体群が存続可能な状態に、少なくとも5つの生息域の一部ではトラが生態学的機能を果たすようになるとされます。

## マルミゾウのグリーン・ステイタス

「回復カテゴリー」は「**大幅な喪失**」、「回復スコア」は33%とされました。6つに区分されたもとの生息域のうち5つでは**存続可能でなく、生態学的機能も果たしていないと判断されました。**また、6つの生息域すべてで、過去の保全活動の恩恵（「保全の遺産」）は認められないとの評価です。ガボン、コンゴ、カビンダおよび赤道ギニアにわたる生息域では、もっとも楽観的に評価すれば、ゾウが生態学的な機能を果たしているとのことです。

マルミゾウについては、IUCNによる「生息状況報告書2024」も公表され、2024年時点の個体数や生息域がそれぞれ135,690頭、907,830 km<sup>2</sup>と推定されました。2024年のJTEF年報でお伝えした2022年時点の推定と比べると、個体数はほぼ変わりませんが、生息域が若干狭くなっています。





# アジアゾウ

©Vivek Menon

## 各生息国における個体数の動向

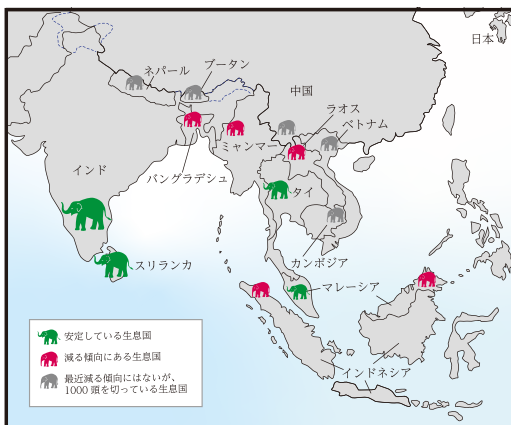
4000年前のアジアゾウの分布は、西はチグリス・ユーフラテス盆地、東北は黄河流域にまで達していました。しかし、現在の分布は、西はインド、東北は中国南端の雲南省にまで縮小しています。生息国は、南インドの5か国、大陸東南アジアの6か国および赤道東南アジアの2か国となっています（計13か国）。シリアのアジアゾウはおよそ2800年前に、もっとも新しくはパキスタンで絶滅しました。現在の生息域面積はおおまかな推測ですが、かつての面積の6%に満たないとされてきました。国際自然保護連合（IUCN）種の保存委員会（SSC）アジアゾウ専門家グループが取りまとめ中の生息域の面積に置き換えると4%にも満たないことになりそうです。特にこの300～400年の間に深刻化したのは、その縮小した広がりの中に、小さな個体群が断片的に存在する状況です。



4000年前と現在のアジアゾウの分布（Raman Sukumar 著『The Story of Asia's Elephants（2011年）』）

その原因は、欧米列強による植民地支配の時代における用材確保のための森林伐採の加速、そのために必要な集材・運搬「機械」としての大規模な生け捕り、第二次世界大戦後のアジア諸国独立期においては、急速に進んだダム建設等のインフラ開発、人口増に伴う定住地確保のための入植拡大、食糧確保のための農業開発などです。

その結果、現在では1,000頭以上からなる個体群は10以下、多くは50頭未満からなります。100年以内という短期的な保全の視点に立っても、個体群は少なくとも100～300の個体からなることが必要であり、進化的観点からの長期的な保全の目標としてはその数を10倍にしなければならぬといわれます。そうすると、地域個体群が次々と消滅していく現状にあることは否定できません。IUCNレッドリストでは、「アジアゾウを「絶滅のおそれが非常に高い」（Endangered）に選定しています。全体の個体数は、48,323～51,680頭と推定されています。



現在のアジアゾウの個体数の傾向（CITES SC78 Doc.65.1 Annex 1のデータを参照して作成）



# イリオモテヤマネコ

©Susumu Murata

## イリオモテヤマネコの生息状況

2025年3月5日に開催されたイリオモテヤマネコ保護増殖事業検討会で、沿岸低地部におけるイリオモテヤマネコの生息状況の調査及びモニタリング結果が発表されました。今年も29ヶ所のモニタリングポイントすべてでイリオモテヤマネコの生息が確認されており、イリオモテヤマネコの社会構造が健全な状態で維持されていることが確認されました。

## イリオモテヤマネコの目撃情報



2025年2月14日 野原～高那リサイクルセンター間で撮影されたイリオモテヤマネコ（写真提供：池村咲奈さん）

イリオモテヤマネコの目撃情報は、目撃者が直接PCやスマホなどの端末から目撃情報を提供できるシステムが稼働して始めた2021年度から大幅に増え始め、ここ数年は毎年500件を超える情報が提供されています。近年は特に、相良～美原、野原～高那リサイクルセンター付近（いずれも島の北東部）での目撃が増加しており、車や人が接近しても逃げない「道路慣れ・人馴れ」したイリオモテヤマネコの目撃情報も多数寄せられています。

## 心配されるノヤギの影響



令和6年12月時点のノヤギ捕獲地点（令和6年度イリオモテヤマネコ保護増殖検討会資料より）

近年深刻さを増しているのが家畜として飼育されていたヤギが逸走して定着してしまうノヤギの問題です。詳しい生息状況は現時点ではまだ分かっていませんが、確認地点は年々増加傾向にあります。ノヤギは多くの植物を食べることから、イリオモテヤマネコの重要な生息地である森林の環境が劣化してしまうおそれがあります。

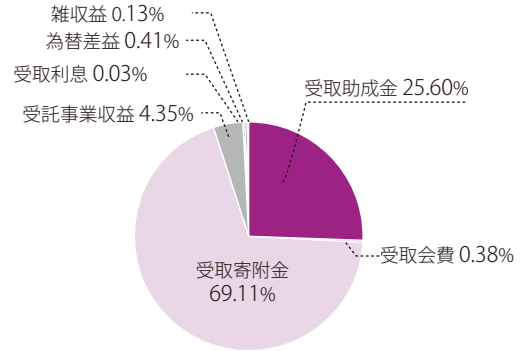
## 2024年度トラ・ゾウ保護基金 決算報告

JTEF2024年度決算 (2024年11月1日～2025年10月31日)

### 収益 総合

	金額 (単位:円)	比率
受取助成金	5,728,253	25.60%
受取会費	84,000	0.38%
受取寄附金	15,462,388	69.11%
受託事業収益	972,178	4.35%
受取利息	6,351	0.03%
為替差益	90,848	0.41%
雑収益	29,250	0.13%
<b>合計</b>	<b>22,373,268</b>	

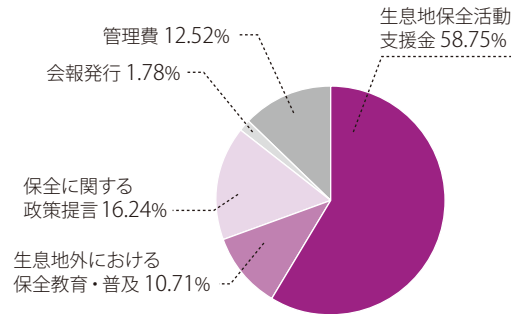
※ 共通の収入は、トラ、ゾウ、イリオモテヤマネコ、それぞれの収支現状を考慮して適正に配分しています。



### 費用 総合

	金額 (単位:円)	比率
生息地保全活動支援金	20,467,168	58.75%
生息地外における保全教育・普及	3,730,257	10.71%
保全に関する政策提言	5,656,374	16.24%
チャリティー・イベントの開催	0	0.00%
会報発行	619,258	1.78%
管理費 (人件費・水道光熱費・消耗品費、その他)	4,362,978	12.52%
<b>合計</b>	<b>34,836,035</b>	

※ 共通の経費は、トラ、ゾウ、イリオモテヤマネコ、それぞれの収支現状を考慮して適正に配分しています。



## 2024年度 トラ保護基金 事業の概要と決算報告

JTEF2024年度決算 (2024年11月1日～2025年10月31日)



### 【事業の概要】

#### ▶ 生息地支援

#### インドのトラ生息地支援プロジェクト

- 人件費を除く支援額その他経費：6,740,931円 (予算額：4,800,000円)
- 現地パートナー：インド野生生物トラスト (WTI)

**【目的】** 中央インド (マハラシュトラ州、チャティスガル州等) および南インド (カルナータカ州、ケララ州等) におけるトラの生息地保全および密猟防止

**【概要】** 森林火災や密猟防止のためのパトロールなど、森林局による保護地域およびその周辺地域の管理への支援  
 ・保護地域外のトラが出没する場所、特にトラが保護地域間を移動するためのコリドー内外で、トラと地域住民との間のコンフリクトを緩和するために地域コミュニティおよび地元行政 (森林局) が実施する諸活動の支援

#### ▶ 生息地外における保全教育・普及

- 人件費を除く決算額：463,583円 (JTEF 教育普及全体の予算額：700,000円)



## 【事業の概要】

## ▶ 生息地支援

## インドのゾウ生息地支援プロジェクト

- 人件費を除く支援額その他経費：5,566,972円  
(予算額：5,250,000円)
- 現地パートナー：インド野生生物トラスト (WTI)

## 【目的】

南インド (ケララ州のワヤナード県等) および中央インド (マハラシュトラ州等) におけるゾウの生息地保全および密猟防止

## 【概要】

- ・森林火災や密猟防止のためのパトロールなど、森林局による保護地域およびその周辺地域の管理への支援
- ・保護地域外のゾウが出没する場所、特にゾウが保護地域間を移動するためのコリドー内外で、ゾウと地域住民との間のコンフリクトを緩和するために地域コミュニティおよび地元行政 (森林局) が実施する諸活動の支援

## ▶ 政策提言

## 象牙市場閉鎖プロジェクト

- 人件費を除く決算額：4,425,183円  
(予算額：3,797,000円)
- 直轄事業

【目的】日本の国内象牙市場を閉鎖する。

## 【概要】

- ・国内象牙市場および象牙の違法取引に関する実態を調査し、それらの規制の実効性を分析する。
  - ・国内象牙市場閉鎖のあり方について、関係機関に提言する。
  - ・象牙を使用しないよう、消費者に教育・普及する。
- \*象牙市場閉鎖プロジェクトの一部は、公益財団法人緑の地球防衛基金から助成を得て実施しています。

## ▶ 生息地外における保全教育・普及

- 人件費を除く決算額：532,052円  
(JTEF教育普及全体の予算額：700,000円)



## 【事業の概要】

## ▶ 生息地支援

## イリオモテヤマネコ生息地保全プロジェクト

- 人件費を除く支援額その他経費：200,333円  
(予算額：195,000円)
- パートナー：  
イリオモテヤマネコ生息地保全調査委員会  
(委員長：土肥昭夫)  
西表大原ヤマネコ研究所 (所長代行：岡村麻生)
- 直轄事業

## 【目的】

西表島低地部におけるイリオモテヤマネコ生息地の保全

## 【概要】

- ・西表島低地部の土地利用に際して生息地保全のために配慮すべきことを調査し、関係機関へ提言する。
- ・ヤマネコを含む絶滅危惧種の回復を中心とした、生物多様性保全のための法制度を関係機関へ提言する。

## 交通事故防止対策

- 人件費を除く支援額その他経費：2,318,767円  
(予算額：2,507,000円)
- 直轄事業

## 【目的】

イリオモテヤマネコの交通事故防止

## 【概要】

- ・地元の人々の自発的な協力のもとに、夜間、目撃多発地点をパトロールするとともに、ヤマネコが頻繁に出没する地点で、通行車両に注意喚起活動を行う。
- ・西表島の地元の人々、観光客に対して、ヤマネコの交通事故防止について普及する。
- ・関係機関と協力して、路肩の草刈り、アンダーパスの清掃等交通事故防止につながる作業を行う。

## ヤマネコのいる暮らし授業

- 人件費を除く支援額その他経費：568,735円  
(予算額：2,530,000円)
- 直轄事業

## 【目的】

西表島で、イリオモテヤマネコ/西表島の自然との「共存」を受け入れるだけでなく、一人一人が「共存」を日常の生活の中で意識し行動するような社会をめざす。

## 【概要】

西表島の子どもたちに、小中学校の場でヤマネコの生態と社会を踏まえ、ヤマネコの立場に立って島の暮らしのあり方について学ぶ機会を提供する。大人への波及効果も重視する。そのためには、現場の教員が主体となった授業実践、学校側が組織的にそれを支える仕組み作りを促すことが必要である。そこで、以下の活動を行う。

- ・現場教員が本授業の意義とそれを実践する技能・工夫を身に着ける教員研修会の実施。
- ・教員の授業実践に関する相談、資料提供、実施における協力
- ・各校が教員の授業を受け入れる環境整備。そのため教育委員会が研修会を公式行事化するようはたらきかける。
- ・教員による授業とは別に、必要に応じた出張授業の実施。

イリオモテヤマネコの日事業 /  
JTEF 西表島支部「やまねこパトロール」運営

- 支出額：5,071,430円 (予算額：5,448,000円)
- 直轄事業

## 【目的】

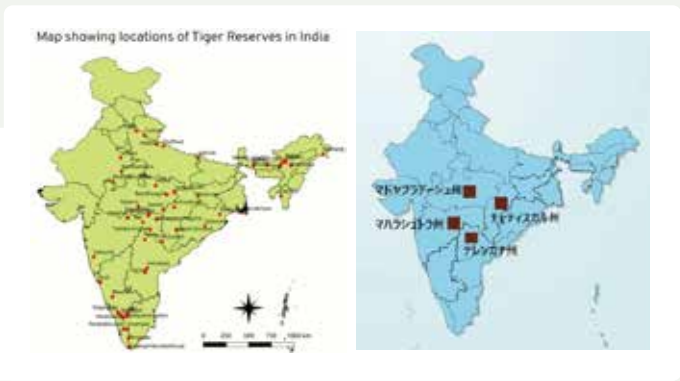
イリオモテヤマネコの交通事故防止、イリオモテヤマネコの生息地に悪影響を与える土地利用防止、イリオモテヤマネコの生活をかく乱する観光のやり方の防止

## 【概要】

- ・西表島の地域住民を対象としたシンポジウム等の教育普及イベントを開催、観光客に対する教育普及ツールの開発・普及等の教育普及活動を行う。

# インドのトラ生息地支援プロジェクト

世界のトラの約8割にあたる3,000頭がインドに生息しており、JTEFの活動地である中央インドは、国内でも特に保護上重要な地域です。昨年度支援したカーナ、サトプラ、ナグジラ・ナウエガオン、アチャナクマルを始めペンチ、メルガート、タドバ・アンダリ等多数の保護地域が指定され、熱帯落葉樹林帯がトラの生存を支えています。これらの地域は、マハラシュトラ、マドヤプラデーシュ、チャティスガル、テレンガナ州、ビハール州の一部にまたがります。



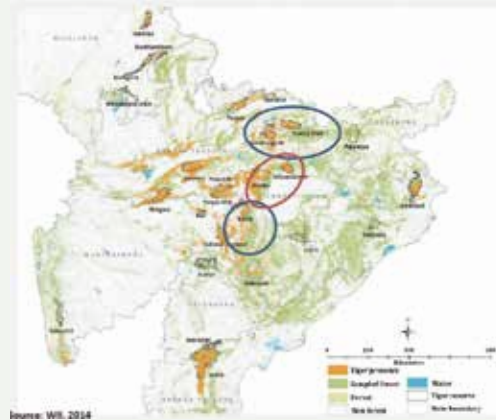
## 緊急行動プロジェクト (RAP) への支援

### 1 野生生物犯罪のホットスポット アチャナクマル・トラ保護区(チャティスガル州) 森林局スタッフ向け研修の実施

アチャナクマル・トラ保護区は、サトプラ山脈に広がる約553 km<sup>2</sup>の保護区で、2009年にトラ保護区に指定されました。現在14頭のトラが確認され、ヒョウやガウル、シカ類、クマ類をはじめ、200種以上の鳥類が生息しています。

一方、立地の厳しさから保全コストが高く、対策の遅れもあり野生生物犯罪が多発しています。そのため、現場で活動する森林局スタッフが、野生生物保護法や犯罪への対応手順を正しく理解することが重要です。

そこで2025年3月1日から3日間、**森林局スタッフ46名を対象に研修を実施しました。**



アチャナクマルトラ保護区のゲート

中央インドのトラ保護区(オレンジ)とアチャナクマルトラ保護区(赤丸内に位置)

この研修は、野生動物保護法や捜査技術、密猟・違法取引対策を総合的に学ぶ内容で、密猟の手口、罠の除去パトロール、犯罪現場の調査、書類作成や裁判手続き、効果的な巡回や森林火災管理などを扱いました。

研修前後のテストでは理解度の向上が確認され、参加者全員にトレーニングキットと修了証が配布されました。



森林局スタッフ(レンジャー)向けのトレーニング・ワークショップと装備提供の様子

### 2 カーナトラ保護区(マドヤプラデーシュ州) 野生生物犯罪防止研修プログラムを実施

カーナトラ保護区(マドヤプラデーシュ州)は、約145頭のトラが生息するインド有数の保護区で、面積は約2,184km<sup>2</sup>(東京23区と同規模)です。保護区の約4割が立ち入りを厳しく制限するコアエリア、残る約6割が科学調査や条件付き観光が認められるバッファゾーンに指定されています。

保護区内および周辺には約180か所の密猟防止パトロール基地が設置され、森林局スタッフが日々監視活動を行っていますが、現場スタッフは定数の約25%にとどまり、人手不足や野生生物犯罪への対応能力の強化が課題です。

そこで、2025年6月29日から3日間、**森林局スタッフを対象に、野生生物犯罪防止のための研修プログラムを実施しました。**



座学に加え、**模擬的な犯罪捜査訓練も実施**しました。捜査の流れを実際に体験しながら、正しい捜査手順や書類の作成方法を学び、現場で起こりやすい見落としやミスの確認など、実践的な内容となりました。

研修の結果、参加者50名のうち34名で、理解度テストの正解率が研修前より20%向上。終了時、全参加者に野生生物犯罪防止マニュアルなどとパトロール用キットを配布しました。



# 3

## サトプラトラ保護区から移転した村人の、より良い暮らしを支える行政プログラムの活用支援

サトプラトラ保護区（マドヤプラデーシュ州・524km<sup>2</sup>）は、インド政府から国内で2番目に管理が優れていると評価されています。その理由の一つが、**29の村が自主的に保護区外へ移転し、移転後の村で行政支援を受けながら生活再建が進められている点です。**

しかし**一部の世帯はいまだ不安定な状況にあり、生計の**

- **ための追加支援が必要**です。支援が得られなければ、再び保護区内に戻り、森林資源に依存した生活に戻るおそれがあります。専門技術の習得など政府の支援プログラムの存在や利用方法が十分に知られていないのが現状です。
- そこで、**こうした世帯に直接働きかけ、政府の生計支援プログラムを活用できるよう支援しています。**

### 新事業

## カーナ・トラ保護区ーアチャナクマル・トラ保護区間、ならびにカーナ・トラ保護区ーナウェガオン・ナグジラ・トラ保護区間の森林コリドー調査

### 目的

カーナ・トラ保護区（マドヤプラデーシュ州）、アチャナクマル・トラ保護区（チャティスガル州）、ナウェガオン・ナグジラ・トラ保護区（マハラシュトラ州）は、中央インドにおけるトラ保全の中核地域です。これらの保護区を結ぶ森林コリドーを保全し、トラが自由に移動できる環境を維持することは、長期的な個体群存続に不可欠です。

本調査の目的は、**コリドーの位置を把握し、どの程度トラの移動に利用されているのか、コリドーによる生息地の接続に対して、どのような人間活動がどのように悪影響を与えているのか、コリドーによる接続を確保するために、どの場所でどのような対策を重点的に実施すべきかを明らかにすることにあります。**

### 調査の柱

#### ① トラの移動に影響を与える地域住民の活動・態度を知る調査

コリドー周辺で暮らす人々から、トラの目撃情報やトラとの衝突（コンフリクト）による事故（家畜被害、人身被害、トラの殺傷）、被害時の補償制度の認知度、薪集めや放牧など心理への依存度について調査します。

#### ② トラや野生動物によるコリドーの利用を知る調査

コリドー内でトラの足あとやフンなどを探し、コリドーのどの部分がどの程度利用されているかを調べると同時に、森の状態を確認します。また自動撮影カメラを設置し、利用する野生動物の種類を調べます。このフィールド調査では、人の活動の影響についても記録します。

#### ③ コリドーによる生息地接続機能の現状を地図で示す

衛星画像を使って、人による土地の利用状況、植生を把握、さらに①と②でえられた情報を盛り込んで、コリドーによる生息地接続の現状を地図に示します。こうして、（コリドーがくびれて接続が途切れそうになっている所では特に）トラがよく通るのに人の影響が高まっている所など、優先的に対策をとらなければならない場所を明らかにします。

### 調査の進捗状況

#### ◎カーナ・トラ保護区とアチャナクマル・トラ保護区間の進捗

トラの通り道が特に狭くなっている2か所にある全8村で、暮らしや生計に関する聞き取り調査を実施。例えば、トラやヒョウによる家畜被害に対する政府補償の支払いの遅れや金額の少なさへの不満があること、一方で、多くの野生動物と距離を保ち共存しているというのが多くの住民の意識ということがわかりました。また、森から得られる木、葉、花、木の実などに依存し過ぎる結果として森林がダメージを受け、それらの収穫が減っているという悪循環に陥っている事実も判明しました。



地域住民との集団面談

#### ◎カーナ・トラ保護とナウェガオン・ナグジラ・トラ保護区間の進捗

コリドーが特に狭くなっている地域の一つに、26の村があることが確認され、暮らしに関する聞き取り調査と野生動物の調査を進めています。また、フィールドでトラの足跡、フンなどの痕跡調査、自動カメラ撮影による調査も進行中です。



コリドー内の土地利用と植生の分布を示す地図



地域の情報提供者からの聴取り(左)



コリドー内で発見されたトラの足跡(中)



自動撮影カメラの設置について森林局レンジャーへレクチャー(右)

## インドのゾウ生息地支援プロジェクト

南インド：インドには、世界全体（48,000～52,000頭）の60%を占める30,000頭のアジアゾウが生息しますが、その約半数が集中するのが南インドです（カルナータカ州、タミルナドゥ州、ケララ州、アンドラプラデーシュ州）。南インドにおける活動エリアは、ケララ州北部のワヤナード県とその周辺。約6,500頭からなるアジア最大のゾウ個体群\*の生息域（東京都の6倍となる12,000km<sup>2</sup>）の一角を占めます。



### 活動エリアについて

### ゾウとの共存のための地域コミュニティによる緊急対応チームへ装備を提供！

ワヤナード・ノース森林区は、ケララ州の中でも最も古い森林区の一つで、野生生物保全にも熱心です。近年では人とゾウとの衝突が頻繁に起きているため、**緊急対応チーム（RRTs）が立ち上げられ**、森林内で起きる衝突に対処しています。今回は、ワヤナード・ノース森林区に属する7つのRRTsに対して必要な装備を提供しました。

JTEFの現地パートナー WTI事務局長のビベック・メノンから、RRTsのメンバーを含む森林局員ら（25名参加）に装備一式が贈られました。

2024年12月28日、森林局のオフィスで装備の授与式が行われました。

#### 緊急対応チームに贈られた装備

- キャッチポール（長い金属棒にループ状のワイヤーがついた動物の捕獲用具）×1、
- 防護手袋×4、トーチ×10、ヘッドランプ×15、GPS×1、チェーンソー×1、
- 散水機×2、野営用テント×2、寝袋×15、バックパック×20



WTIのビベック・メノンと森林区長から緊急対応チームのメンバーへチェーンソーを授与



授与式で、WTI創立者ビベック・メノンから挨拶



装備授与式の参加者たち

## 象牙市場閉鎖プロジェクト

### 1 ワシントン条約第78回常設委員会（ジュネーブ）に参加・登録オブザーバーとして意見表明

2月3日、絶滅危惧種の国際取引を規制するワシントン条約の第78回常設委員会（SC78）が、スイスのジュネーブで開催され、トラ・ゾウ保護基金もオブザーバー参加しました。2月5日の「国内象牙市場」審議の際には、世界の12のNGOを代表して発言し、条約事務局によって公表されたデータによって、日本のオープンな国内象牙市場が違法な象牙の国際取引に「寄与している」ことが証明された、と強調しました。



### 2 国内象牙市場閉鎖を求める請願署名キャンペーン&国会への働きかけ

絶滅危惧種の取引規制などを行う「種の保存法」の見直し、環境省によって進められています。そこで、国内象牙市場閉鎖を盛り込んだ法改正を実現しよう！とJTEFなど4団体が国内象牙市場閉鎖の実現を求める請願書を国会に提出するキャンペーンを実施しました。そのKick Off イベントとして、2025年2月22日、シンポジウム「アフリカのゾウを象牙密猟から守るために、象牙消費国：日本にいる私たちができること」（東京都港区）を開催しました。象牙製品のユーザーとして三味線演奏家、箏の付属品の代替素材製造・販売をされている方もお招きし、伝統的な象牙ユーザーの理解も得られる象牙市場閉鎖のあり方を議論しました。



シンポジウムを開催（東京都渋谷区）

その後多くの方のご協力で、5月末に自由民主党と立憲民主党の衆議院議員のご紹介により、合計5,745通の請願書が衆議院に正式に受理されました。

この国会では、衆議院環境委員会および参議院の予算委員会・決算委員会で国内象牙市場閉鎖に関する質疑も行われました。請願とあわせ、国内象牙市場閉鎖が重要課題であることが国政の場で示されたと言えます。

# ゾウとの共存を考える教育プログラム「ゾウ大使になろう」

2025年8月16・23日の2日間にわたり、**横浜市**の**金沢動物園**と**よこはま動物園ズーラシア**とのコラボで、教育プログラム「ゾウ大使になろう」を実施しました。参加者は、動物園側で一般募集した小学校4～6年生10数名です。

このプログラムの実施は3年目となります。1年目は、子どもたちが、動物園のゾウの動きや体の使い方を直接観察し、ゾウのすごいところ、人間と似ているところなどを実感した後、ゾウになりきってそのくらしとそれを脅かす人間の影響を疑似体験するゲームを行いました。ゾウの立場に立って、ゾウを保全することの意味を理解してもらうことが狙いでした（2年目は台風の影響で、予定した2日のうち1日を中止せざるを得ず、プログラムの実施が完全ではありませんでした）。



金沢動物園でゾウになりきるゲームを終えて(左)ズーラシアで解説を聞きつつ、ゾウの観察(右)



3年目の2025年も、1年目のプログラムに改良を加えて踏襲、動物園のゾウの観察とゲームを通して、子どもたちにゾウの立場を実感してもらいました（1日目：於金沢動物園）。まったく新しいのは、人がなぜゾウに脅威を与えるようなことをしてしまうのか、人間側の事情を理解できるよう、ロールプレイングを実施したことです（2日目：於ズーラシア）。地域の人々の日常のくらしが、望まずしてゾウとの衝突を引き起こしてしまっていることを実感できるように、キャラクター設定とシナリオを工夫しました。



ロールプレイに挑戦する参加者たち(左)、ロールプレイで子どもたちが演じた配役。左から、農家で生計を立てる村人、その息子、村に住む教師、密猟者、NGOスタッフ(この役に限りJTEFのボランティアさんが担当しました。)

「ゾウ大使になろう」プログラムの最終目標は、ゾウの保全の本質が「人とゾウとが共存できるように、人が知恵をしばり、人が行動すること」にあると気づいてもらうことにあります。これは人間社会のあり方の問題であり、小学生には深い理解が難しい面もあります。しかし、1年目のプログラムで目立った「人間が悪」という短絡的な発言が出るのがなく、参加者みんなで共存のために努力しようという雰囲気の中でプログラムを終えられたことに将来的な手応えを感じました。

今回のプログラムの成果は、8枚のポスターにまとめられて2つの動物園内にはり出され、来園者の教育普及に役立てられました。



## 3 東京都の象牙組合に対する補助金を停止するよう求める意見書を提出

東京都は、東京における象牙取引の改革を約束する一方で、長年にわたり、象牙製品の需要を高め、象牙の国際取引を解禁するために**象牙業界団体(東京象牙美術工芸協同組合)**へ補助金を交付してきました。

2024年6月、EIAとJTEFは、このような目的の**補助金を停止するよう求める意見書を知事宛に提出**しました。これを受けた東京都は、**2024年10月、象牙の国際取引の再開や象牙製品の需要拡大を目的とした補助金交付を取りやめること**としました。

2025年7月には、前月に象牙組合の主要な組合員である**醍醐象牙店の役員ら**が象牙の違法取引で逮捕されたことを受け、東京都に対し再度意見書を提出、**今後は象牙組合のいかなる事業に対しても本補助金を交付しないよう求めました。**

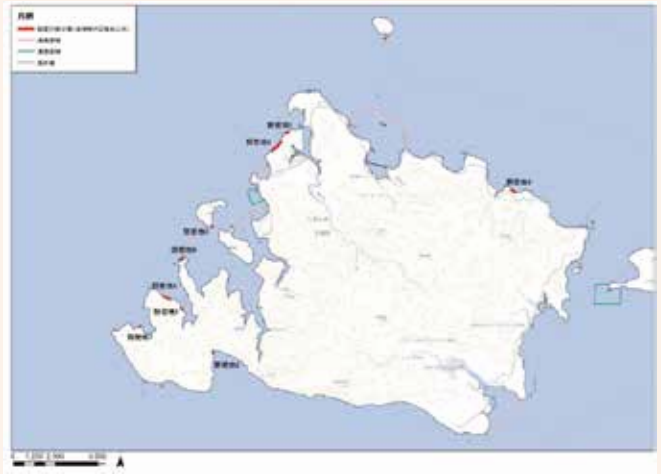
## イリオモテヤマネコ生息地保全プロジェクト

### キャンプ・たき火ツアー解禁に向けた動き

竹富町が事務局を務める西表島エコツーリズム推進協議会にて、西表島島内9か所でたき火を伴うキャンプツアーを解禁する計画が進められています。キャンプ候補地(図の赤線部分)のうち5か所は、西表石垣国立公園の第一種特別地域及び世界遺産区域に指定されており、イリオモテヤマネコをはじめとする規制動植物および、周辺環境への悪影響が懸念されています。

2021年に国の認定を受けた西表島エコツーリズム推進全体構想では「キャンプ、たき火等の行為は原則禁止する」と定められています。また、2023年に策定された西表島観光管理計画では、管理の基本方針として、「遺産地域においては、遺産価値の保全を最優先とし、あらゆる活動が影響を引き起こすと仮定して、観光利用による負荷を現状以下に抑えることを原則とする。」とされており、世界遺産区域内の観光利用については「恒常的に利用されているフィールド20か所を上限としてそれ以上利用箇所が増大しないよう制限する」と定められています。

キャンプ・たき火ツアーの市場開放はこれらの計画と明らかに矛盾していますが、環境省、竹富町は「キャンプ・たき火ツアーは、恒常的な利用を想定していないので、利用箇所の増加にはあたらない。環境負荷についてもあるかどうかは分からない。」として、エコツーリズム推進全体構想の例外として推進する方針を崩していません。果たしてこのような言訳が許されるのでしょうか。やまねこパトロールは、事務局に対して、慎重に議論を進めるよう引き続き求めています。



令和6年度第2回西表島エコツーリズム推進協議会 配布資料  
「バックカントリーツアーにおける海浜での野営に関する取り組みについて(案)」より

## 交通事故防止対策

イリオモテヤマネコの交通事故は2025年8月2日を最後に発生しておらず、2026年は現在のところ無事故となっています。美原、野原、高那などでは路上頻出が続く時もありますが、やまパトメンバーで協力して、交通事故多発地点を巡回する「夜間パトロール」と出没多発地点に立つて行う「直接注意喚起活動」を続けています。最近では、通りかかったドライバーの方からお声がけを頂くことも増えました。

直接注意喚起活動と合わせて行っている交通調査では、ドライバーの速度が顕著に低下するなど、運転マナーの向上が確認されました。



## ヤマネコのいる暮らし授業



2024年度(2024年11月～2025年10月)は、白浜小、西表小、大原小、大原中、上原小学校で「ヤマネコのいる暮らし授業」を実施しました。やまねこパトロールは、これまで、西表島出身・在住の江郷下智美先生の協力を得て、ヤマネコ学習の授業プログラムを作ってきましたが、今年は新たな取り組みとして、やまねこパトロール現地マネージャーであり、1970～90年頃にかけてイリオモテヤマネコの写真を撮影してきた村田行さんに、イリオモテヤマネコ保護に対する思いや、撮影当時のエピソードを語っていただく授業を行いました(白浜小、西表小)。

## アンダーパスの機能改善に向けた取り組み

西表島の県道下に123か所設置されている野生動物用の通路(アンダーパス)。2020年より竹富町イリオモテヤマネコ保護基金を活用した事業として、やまねこパトロールが継続的な点検・清掃活動を行っていますが、毎年大量に押し寄せてくる海岸漂着ゴミや、繁茂する植物によって、十分な管理が出来ていないアンダーパスがあります。やまねこパトロールは環境省と協力し、このようなパスの機能を改善する取り組みを始めています。

2025年9月からはJAC環境動物保護財団の助成金を活用し、改善の余地があるアンダーパス5か所に自動撮影カメラを設置、イリオモテヤマネコの利用状況調査を始めています。



## イリオモテヤマネコの日

毎年4月15日は、竹富町条例で定められたイリオモテヤマネコの日。2025年はイリオモテヤマネコ発見60周年!やまねこパトロールと環境省西表野生生物保護センターが主催し、同センターとユウグレナ石垣港離島ターミナルの2か所で特別展を開催しました(4月15日～29日)。展示された写真は、島在住の写真家・村田行さんによるもので、既存作品に加え、新たに10枚のパネルを制作・公開したほか、ヤマネコの眼から見た環境を表現した新作のコラージュ作品も展示されました。また、来場者には、イリオモテヤマネコ解説冊子「改訂版 ヤマネコのいる暮らし」も無料配布しました。新作の写真パネルと冊子の制作は、JAC環境動物保護財団の助成によるものです。



ユウグレナ石垣港離島ターミナルの展示



西表野生生物保護センターで展示された村田行さんの新作コラージュ作品

イベント報告

2025.2.8 西表島で「第30回記念竹富町やまねこマラソン大会」  
強風に煽られながら、メンバー全員完走しました！やまねこグッズも好調な売れゆきでした。



2025.3.1&15  
上野動物園とコラボイベント  
世界野生生物の日企画  
「トラ博士になろう」



2025.3.8&9  
「第20回動物たちのSOS展 ~守ろう!生物多様性」  
@野毛山動物園



3月3日は「野生生物の日」にブースを出展しましたShoeZにサポートいただいてゾウのOXクイズと象牙について話し、さらにブースで象牙国内市場閉鎖を求める署名用紙も配りました。

2025.4.11  
国内象牙市場閉鎖を求める請願署名活動を共にいった JWCSのラジオ番組で、署名活動を通じていただいた疑問に、JTEFが答えました。



2025.4.15 イリオモテヤマネコの日「イリオモテヤマネコの日」企画展  
@石垣港離島ターミナル 村田行さん(やまパト現地マネージャー)の写真展は4月30日まで。



2025.4.19&20 アースデイ東京  
@代々木公園 JTEFとアフリカゾウの涙でコラボブースを出展。JWCS、CITES Youthなど2団体も協力! 象牙市場閉鎖を求める請願書への署名を呼びかけました。各団体の協力者が「かわさきFMの地球愛にあふれる活動TO THE NATURE」のインタビューで思いを述べました。



2025.5.3&10  
かわさきFM「自然環境教育番組 TO THE NATURE」(ナビゲーター: 舞はるりさん)で、2週にわたりラジオ番組で「国内象牙市場閉鎖」活動を取りあげていただきました。



2025.6.1  
西表島産の黒糖を使用した「沖縄黒糖のブラウニャー」が発売(オールハーツ・カンパニー)。「猫専門イラストレーター」Coonyさんのイラスト付きです。売上げの一部からやまパトに寄付されました。



2025.6.7  
オンラインイベント国内象牙市場を閉鎖するための署名キャンペーンの報告会



2025.7.16「虎の門の百人カイギ」に参加し、戸川久美理事長が自己紹介&JTEF活動を紹介。



2025.7.22-8.20  
発見60周年記念グッズ 野生動物サポートグッズ結がクラウドファンディングTシャツ販売し、売り上げは¥1,157,300に。



2025.8.9&10  
「世界ゾウの日エレファントナイト」にブース出展 @金沢動物園



2025.8.11  
J-wave ラジオ番組放送  
「世界ゾウの日インタビュー」

2025.8.14&15 @多摩動物園  
世界ゾウの日企画として、ブース出展



2025.9.27&28「ナマステインディア」ブース出展 @代々木公園



2025.10.18&19「ヤマネコ祭り」ブース出展。活動紹介トークと紙芝居も。  
@井の頭自然文化園



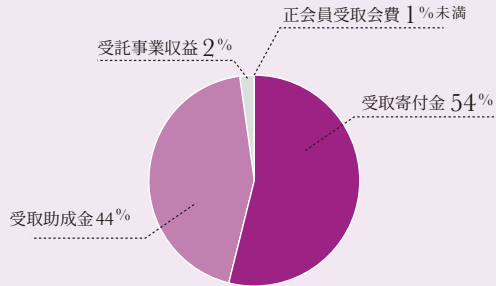
2025.10.31 @東京ウィメンズプラザ  
象牙を使わない琴コンサート~箏曲の地平線を望む夕べ  
(主催: JWCS、共催: JTEF) で講演



# トラ・ゾウ保護基金 2025年度予算(全体)

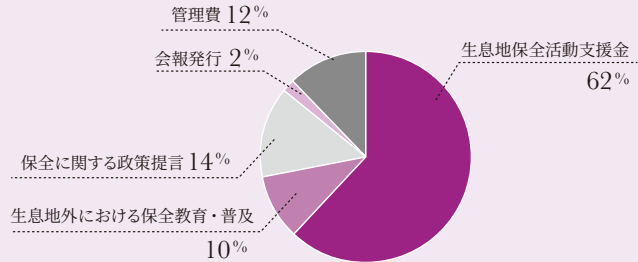
## 予算：収益

	単位：円
正会員受取会費	90,000
受取寄附金	15,999,000
受取助成金	12,977,000
受取補助金	0
受託事業収益	555,000
<b>合計</b>	<b>29,621,000</b>



## 予算：費用

	単位：円
生息地保全活動支援金	19,686,000
生息地外における保全教育・普及	3,267,970
保全に関する政策提言	4,312,780
チャリティー・イベントの開催	0
会報発行	667,590
管理費(人件費・家賃・水道光熱費・消耗品費、他)	3,762,660
<b>合計</b>	<b>31,697,000</b>



\*予算を上回る額については繰越金を充当。

## 2025年度 トラ保護基金 事業計画

### ●RSP(緊急支援)を強化します!

地域住民や森林省の要請を受けた保護区内外で、密猟防止やコンフリクト緩和のため、地域住民と森林局員に対してトレーニングを行います。



### ●引き続き重要コリドーの現状調査を進めます!

中央インド保護区周辺の重要地で、コリドーが特に狭くなっている地域は人間活動が活発な地域です。そこで、地域住民に暮らしに関する調査や、ここを利用している野生動物調査を行って、その結果から具体的な保全活動を進めます。

## トラ保護基金 2025年度予算 (2025年11月1日～2026年10月31日)

### 予算：収益

	単位：円
<b>合計</b>	<b>7,452,566</b>

### 予算：費用

	単位：円
生息地保全活動支援金	6,445,600
生息地外における保全教育・普及	838,630
保全に関する政策提言	8,180
チャリティー・イベントの開催	0
会報発行	214,001
管理費(人件費・家賃・水道光熱費・消耗品費、他)	922,088
<b>合計</b>	<b>8,428,499</b>

引き続き、プロジェクトへのご寄付をよろしくお願いいたします!



©Toyomi Tanaka

## ● アジアゾウとの共存をめざし、生息地における保全活動へ支援!

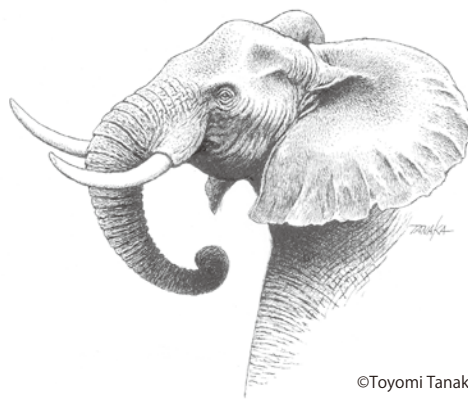
ケララ州を中心とする南インドであいかわらず深刻な人とゾウとのコンフリクト。これを緩和してゾウとの共存を目指す地域コミュニティを支援します。また、森林局レンジャーの野生生物犯罪防止活動への支援も実施します。

## ● アジアゾウの長期的な保全のために専門家グループを支援!

国際自然保護連合 (IUCN) 種の保存委員会 (SSC) に属するアジアゾウ専門家グループ (AsESG) は、長期的なアジアゾウ保全のため、生息国をはじめとする関係者に専門的助言を行っています。JTEFは、AsESGに寄附する日本唯一の団体として、支援を継続します。

## ● 11月開催のワシントン条約常設委員会(SC81)へ参加!

日本から違法に輸出された象牙が国外で多数押収されている実態が、ワシントン条約の公式データでますます明らかになりつつあります。SC81では、その事実真剣に目を向けるよう条約締約国を促し、日本の国内象牙市場の重要性を訴えます。



©Toyomi Tanaka

## ● 国内象牙市場閉鎖に向けて国内でキャンペーン実施!

- ・1年遅れて2027年の国会で改正法案、関係省庁、国会議員等の関係者に働きかけを行います。
- ・日本の国内象牙市場が、違法に取引される象牙に対する需要を刺激していること、ひいてはアフリカゾウの密猟リスクを高めていることについて普及活動を活発に行います。
- ・東京都が、東京象牙美術工芸協同組合へ補助金を交付して、事実上国内象牙市場維持に寄与することのないよう監視を継続します。

## ● 動物園等とのコラボによる、ゾウとの共存について理解を深める教育普及活動

### ゾウ保護基金 2025年度予算 (2025年11月1日～2026年10月31日)

予算：収益

単位：円

合計	15,006,000
----	------------

予算：費用

単位：円

生息地保全活動支援金	5,024,400
生息地外における保全教育・普及	1,868,624
保全に関する政策提言	4,234,142
チャリティー・イベントの開催	0
会報発行	248,887
管理費(人件費・家賃・水道光熱費・消耗品費、他)	2,280,298
合計	13,656,351

引き続き、  
プロジェクトへのご寄付を  
よろしくお願いいたします!

### ● 夜間パトロールと注意喚起活動を安定的に実施していきます

イリオモテヤマネコの交通事故は、2023年、2024年と0件が続きました。2025年は残念ながら1頭が交通事故死してしまいましたが、2010年代（平均5頭が死亡）と比べると大きく減少したことが分かります。イリオモテヤマネコの飛び出しを意識した安全運転が島に浸透しつつあると感じます。今年もイリオモテヤマネコの交通事故0を目指し、夜間パトロールを安定的に実施するとともに、ヤマネコ出没多発時に実施する注意喚起活動についてもさらなる体制強化を計っていきます。



### ● ヤマネコのいるくらし授業の継続実施

島内小中学校で実施している出前授業「ヤマネコのいるくらし授業」継続してします。また、昨年悪天候で実施できなかった西表島内教員向け「ヤマネコ研修会」についても引き続き継続して開催していく予定です。教員の皆様と協力し、授業プログラム開発も進めてまいります。



### ● アンダーパスの機能改善

環境省、竹富町等の関係機関と協力し、島内に123基あるアンダーパス（野生動物用トンネル）の清掃作業を実施していくほか、よりイリオモテヤマネコが利用しやすいアンダーパスになるよう周辺環境の整備も進めていきます。イリオモテヤマネコの路上出没頻度を減らし、交通事故を防止する取り組みです。



## イリオモテヤマネコ保護基金 2025年度予算 (2025年11月1日～2026年10月31日)

予算：収益

単位：円

合計 7,162,434

予算：費用

単位：円

生息地保全活動支援金	8,216,000
生息地外における保全教育・普及	560,716
保全に関する政策提言	70,458
チャリティー・イベントの開催	0
会報発行	204,702
管理費（人件費・家賃・水道光熱費・消耗品費、他）	560,274
合計	9,612,150

引き続き、  
プロジェクトへのご寄付を  
よろしくお願いいたします！



3/7(土)、8(日)  
「買って、知って、  
まもるシェ!」  
(上野動物園)  
ブース展示 グッズ販売

3/14(土)、15(日)  
「動物たちの SOS 展」  
(横浜市野毛山動物園)  
ブース展示  
グッズ販売

4/18(土)、19(日)  
アースデー東京 2026  
(代々木公園)  
ブース展示  
グッズ販売

4/25(土)  
「やまねこパトロール  
10周年記念  
交流会 in 東京」  
(東京 The point 新橋レンタルスペース)  
JTEF 西表島支部  
高山事務局長トークなど

# Media

JTEFの活動/コメント掲載または、それを背景にした記事  
(2024.11 ~ 2025.10)

- 2025年2月8日: 八重山毎日「イリオモテヤマネコ交通事故ゼロ777日 来島者への周知強化が課題」\_環境省や林野庁、沖縄県、竹富町のほか西表財団、トラ・ゾウ保護基金西表島支部、どうぶつたちの病院西表など関係機関が参加
- 2025年3月28日: 週刊金曜日「『ゾウより象牙』の日本政府 国内市場閉鎖を拒む正当な理由はない」\_現在、日本の市場を流通する象牙の多数は、元をたせば多くが密猟象牙であり、政府が条約に従わずに輸入許可したものである。
- 2025年4月16日: 八重山毎日「『イリオモテヤマネコの日』企画展 発見から60周年の節目 写真パネルや解説など掲示、30日まで」\_展示されている写真は村田行さん…が1979年から93年ごろに撮影したもの。…村田さんは「人間には何げないところでもヤマネコにとっては重要なえさ場であり隠れ場所。すべてを開発するのではなく、生息地を守り、残して欲しい」と願った。…やまねこパトロールが発行した冊子「ヤマネコのいるくらし」も配られた。
- 2025年5月20日: 八重山毎日「『ブラウにゃー』全国販売へ 西表産黒糖使用、収益はヤマネコ保護活動に」\_パッケージは、猫専門イラストレーター Coony (クーニー) さんが担当。…企画に携わったやまねこパトロールの高山雄介事務局長は「これまで関心がなかった人に知ってもらえるきっかけになること、寄附いただけることは非常にありがたい。この商品を通して、意外と知られていないヤマネコのロードキル問題について関心を持ってもらえたら」と期待した。
- 2025年6月4日: NHK「埼玉 草加 象牙をマンモスの牙などと偽り販売か 元社長ら逮捕」\_NPO法人「トラ・ゾウ保護基金」の事務局長を務める坂元雅行弁護士は、「中国をはじめアジアでは象牙の需要が依然として高く、日本国内での合法的な市場が結果として違法な輸出を引き起こす温床となっている。マンモスの牙と象牙は似ていて象牙密輸の『隠れみの』になっているという指摘もされているので、規制のあり方が問われている」と話していました。
- 2025年6月22日: VIDEO NEWS「日本はいつまでワシントン条約の『問題児』なのか」\_そもそもワシントン条約とはどのようなものなのか。そしてその中で日本は今までのような存在であり、また今後どのような存在であるべきなのか。トラ・ゾウ保護基金事務局長の坂元雅行氏と環境ジャーナリストの井田徹治、キャスターの新井麻希が議論した。
- 2025年8月28日: 中国新聞「消えゆく動植物を守れ ワシントン条約50年 対象リスト約4万種 国際取引を禁止や規制」\_NPO法人トラ・ゾウ保護基金の事務局長で弁護士の坂元雅行さんの話…象牙の市場があるためにアフリカゾウの密猟や違法取引が増えたとして国内の象牙市場閉鎖を勧告する決議が採択されている。だが、日本政府は「日本の市場は密猟や違法取引には関与していない」として主要国でほぼ唯一、国内の象牙市場を閉鎖していない。
- 2025年10月20日: 朝日新聞「『平和の使者』アジアゾウとトランプ危機 打開策は『窓の外』に手を」\_今日の動物園には、野生下で生きる動物たちの世界をのぞくための窓の役割を果たすことが期待されている。さらに、窓の外へ飛び出して、発展途上国の生息地における保全活動に直接的な支援を行っているのが欧米の先進的な動物園である。日本の動物園も、窓の外へ手を差し伸べることを始められないだろうか。(坂元雅行寄稿)

## 事務局日誌

- 2024-----
- 11.25 杉並どうぶつ相談員講座」 戸川理事長 講演
- 2025-----
- 1.18 JTEF 理事会 総会  
JTEF 第9回オンライン・イベント「アフリカゾウを象牙目的の密猟からまもるために〜 2025年〜 2026年は国内象牙市場閉鎖のラストチャンス〜」
  - 2.8 第30回竹富町やまねこマラソン参加 ブース出展
  - 2.22 アフリカのゾウを象牙密猟から守るために請願書名キックオフイベント
  - 3.1 うえのトラ大使第1回目 @上野動物園
  - 3.4 衆議院内象牙問題 講義 坂元事務局長
  - 3.8,9 動物たちの SOS 展〜守ろう生物多様性〜 ブース出展 @横浜市野毛山動物園
  - 3.15 うえのトラ大使第2回目 @上野動物園
  - 4.11 JWCSラジオ第45回「日本での象牙の販売禁止が、どうしてゾウの保護になるの?」坂元事務局長出演
  - 4.19,20 アースデー ブース出展 @代々木公園
  - 5.2 かわさきFM To the Nature
  - 6.1 西表島産の黒糖使用の「沖縄黒糖のブラウにゃー」発売 やまねこパトロールへ1部寄付
  - 6.27 JTEF 理事会 請願署名報告会
  - 7.4 JTEF 事務局神谷町へ引越し
  - 7.7〜「ブラウにゃー」、全国ファミリーマート、スーパーでも販売開始
  - 7.16 虎ノ門100人カイギ vol.2 戸川理事長登壇
  - 7.17 野生動物サポートグッズ結からイリオモテヤマネコ発見60周年記念 Tシャツがクラウドファンディングで発売
  - 8.9,10 エレファントナイト ブース出展@金沢動物園
  - 8.11 8月12日の世界ゾウの日にちなみ、佐藤尊子スタッフがJ-Wave “Just a little lovin” でインタビューを受ける
  - 8.14,15 夜の動物園ブース出展 @多摩動物公園
  - 8.16 ゾウ大使1回目 @金沢動物園
  - 8.23 ゾウ大使2回目 @よこはま動物園ズーラシア
  - 9.16 アジアゾウ専門家会議 坂元事務局長出席 @ベトナム
  - 9.27,28 ナステインディア2025 ブース出展 @代々木公園
  - 10.12 環境省西表野生動物保護センター 30周年 イリオモテヤマネコ発見60周年記念講演会 村田行氏 阪口法明氏
  - 10.18,19 ヤマネコ祭り ブース出展 @井の頭自然文化園
  - 10.29 JTEF 理事会
  - 10.31 象牙を使わない琴コンサート (主催: 野生動物保全論研究会、共催: JTEF) @ウエメズプラザ渋谷

### JTEFの活動をご支援ください!

JTEFの活動は、皆さまからのご寄附で支えられています。ご寄附については、税制上の優遇措置があります。また、相続や遺贈によって取得された財産のご寄附、ご自身の遺言書による寄附(遺贈)にも優遇措置があります。

#### マンスリー/年間サポーター、随時(任意額)のご寄附

JTEFのウェブサイトからクレジットカードで簡単にご寄附いただけます。郵便振替でもご寄附いただけます。

www.jtef.jp または「トラゾウ」 検索



ゆうちょ銀行: 口座番号) 00170-7-355897 加入者名) トラ・ゾウ保護基金  
遺産寄附もお受けしています。詳しくはお問い合わせください。

#### トラ・ゾウ保護基金へのご寄附は、

#### 確定申告で納められた所得税の控除(還付)を申告できます

2025年1月1日以降2025年12月31日の間にいただいた年間サポート寄附と随時の寄附は、合計で2,000円を超えると令和7年分の所得税の控除申告ができます。ぜひご活用ください。

確定申告の受付は、2026年3月16日(月)まで。



特定非営利活動法人  
トラ・ゾウ保護基金  
Japan Tiger and Elephant Fund  
http://www.jtef.jp

〒105-0001  
東京都港区虎ノ門 3-18-12 ス튜디오オ虎ノ門 1111 号室  
Tel : 03-3595-8088 Fax : 03-3595-8090  
E-mail : hogokikin@jtef.jp URL : www.jtef.jp  
郵便振替口座 : ゆうちょ銀行 口座番号) 00170-7-355897  
加入者名) トラ・ゾウ保護基金

年次報告書  
トラ保護基金 vol.28  
ゾウ保護基金 vol.25  
イリオモテヤマネコ保護基金 vol.16  
2026年2月28日発行  
発行人: 戸川久美 編集: 戸川久美  
レイアウト: 土肥優子

SNSからも  
拡散お願いします!